



宮崎県綾町役場で開催された連携会議＝宮崎県綾町役場

## 第20回綾プロジェクト連携会議を開催 綾プロジェクト10周年の節目を迎え

6月27日に宮崎県綾町役場において、「綾の照葉樹林プロジェクト(略称「綾プロ」)の第20回連携会議が、九州森林管理局、宮崎県、綾町、公益財団法人日本自然保護協会、一般社団法人てらのはの森の会の関係機関5者が出席し開かれました。

会議の冒頭、河野耕三(てらのはの森の会)代表理事は「先般、第20回国際照葉樹林サミットが屋久島で開催された。綾プロも、大きな節目である10周年を迎える。また、このプロジェクトは綾ユネスコエコパークの中核を担っており重要な取り組みです。さらに協定5者が連携・協働して取り組んでいきましょう」とあいさつがありました。

会議は、関係機関5者から2013年度事業報告及び2014年度事業計画(案)が報告・提起され、満場一致で確認・承認されました。

また、事務局から①森林環境教育基本計画策定部会の設置、②綾プロ10周年記念行事の実施、③有識者会議の開催、④第Ⅲ期短期行動計画の見直しについて提起され、今後さらに策定部会、10周年記念行事実行委員会及び



冒頭挨拶をする河野耕三(てらのはの森の会)代表理事

連絡調整会議の場で検討・調整することが確認され、連携会議を閉会しました。  
(担当「計画課」)

事務局から提起する松永善人(森林施業調整官)



会議へ参加した計画保全部長並びに宮崎森林管理署長

# 人のうごき

8月1日付林野庁長官発令

林野庁森林整備部森林利用課企画班企画係長

嘉門洋介（企画調整課）

林野庁国有林野部管理課共済組  
合業務班主計係長

柳瀬隆史（西都児湯署）

8月1日付森林管理局長発令  
保全課森林利用係長

甲斐和幸（計画保全部付）

佐賀署総括森林整備官

鹿田純吉（大分西部署）

大分西部署総括森林整備官

鞭馬一郎（福岡署）

西都児湯署地域技術官

椎葉智史（鹿児島署）

福岡署首席森林官

森浩之（保全課）

総務企画部付

田中和利（佐賀署）

計画保全部付

園田清隆（治山課）

宮崎署

古川さおり（西都児湯署）

林野庁出向

嘉門洋介（企画調整課）

柳瀬隆史（西都児湯署）

（担当＝総務課）

## PTAの要請で森林教室

【都城支署】都城市立祝吉小

学校3年生PTAの要請で森林

教室を行いました。当日は児童

や保護者を含め約230人が参

加。森林教室では「森林の役割」

「木工クラフト」「しおり作り」

の3つのプログラムを用意しま



大勢の保護者が参加した森林教室＝都城

など創作意欲にあふれるいろい  
ろなペンダントが出来ました。  
「しおり作り」では、押し花や  
台紙・リボンを選び自分だけの  
しおりが出来上がりました。会  
場の体育館は暑い環境でしたが  
児童らは疲れた様子もなく木の  
枝や葉に直接触れ、森林・自然  
環境の大切さを学習できた有意  
義な時間となりました。

## 鹿児島大学生へ屋外講義

【鹿児島森林管理署】鹿児島

大学農学部依頼で生物環境学

科森林科学コース生へ講義の一

環として、「桜島地区における

治山事業」と題し研修を行い学

生31人と教授2人が参加しまし

た。湯平展望所において当署の

概要、国有林の役割、桜島にお

ける植物の遷移などについて説

明。場所を移動し引の平、八谷



担当者から説明を聞く参加者＝鹿児島

## 今井 敏



## 林野庁長官が交替

長官が退職し、今井敏新長官が  
就任しました。

新長官の略歴は次のとおりで  
す。

◇ ◇ ◇

昭和55年4月 農林水産省入省  
（上級甲・法律）

平成7年4月 大臣官房総務課  
調査官

平成9年1月 大臣官房企画室  
上席企画官

平成11年7月 水産庁漁政部企  
画課長

平成14年4月 経営局経営政策  
課長

平成16年7月 大臣官房企画評  
価課長

平成19年7月 大臣官房政策評  
価審議官兼経営  
局

平成21年7月 経営局長

平成22年7月 生産局長  
平成24年9月 大臣官房長  
平成26年7月 林野庁長官  
（担当＝総務課）

## 国民の祝日「山の日」が制定

平成28年から8月11日が「山の  
日」として国民の祝日に制定さ  
れました。山の日の意義は「山に親  
しむ機会を得て、山の恩恵に感謝  
する」となっています。これを機  
に国民が山に親しむ機会が増え、  
森林や山村に対する理解と関心が  
深まることを期待しています。  
（担当＝技術普及課）





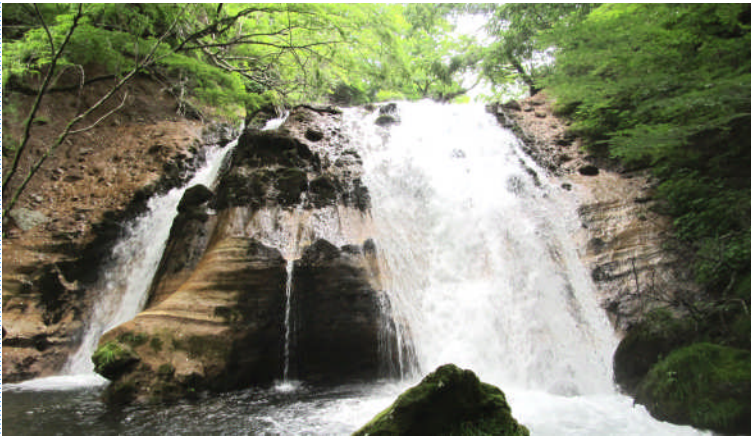
大分森林管理署

久住森林事務所

首席森林官 塚本 順一



おたふくの面のように見える黒岳の眺望



「男池名水の滝遊歩道」終点付近にある名水の滝



男池周辺にあるケヤキの大木

黒岳は、くじゅう連山の北東部にあり、前岳、天狗岩、高塚山などの峰からなる鐘状の火山で、最高地点は高塚山にあります。草原が多いくじゅう山系の山々にあつて、広葉樹の原生林が広がる山で、樹木が茂った山

の様子が黒く見えることから黒岳の名があります。また、南側の竹田市から見ると、仰向けになったおたふくの面のように見えることから、おたふく山とも呼ばれています。

当地域は阿蘇くじゅう国立公園に指定され、当署ではブナ、ミズメなどの希少樹種を森林内に保存することにより、将来の黒岳の名が保たれます。また、南側の竹田市から見ると、仰向けになったおたふくの面のように見えることから、おたふく山とも呼ばれています。

男池は、日本名水百選に選ばれていて、水温は年間を通して12・6度を保ち、湧出量は毎分14リットル、一日2万リットルにも及びます。

黒岳登山口は、無料駐車場やトイレも整備されており、「男池名水の滝遊歩道」コースは、往復30分程度で手軽に森林浴が楽しめます。そのコース内にある男池は、日本名水百選に選ばれていて、水温は年間を通して12・6度を保ち、湧出量は毎分14リットル、一日2万リットルにも及びます。

# 神秘の森に湧水池 「黒岳」1587m

その周辺には、オヒヨウ、ケヤキ、ミズナラ、ブナなど巨木の緑は春から秋にかけてうっそうと茂り、秋から冬には落葉し、早春の柔らかい日差しの中ではハルトラノオ、ユキワリイチゲ、ユキザサなどの可憐な花も觀賞できます。終点近くには、「名水の滝」もあり、四季折々の景観が満喫できます。

また、登山口から高塚山、前岳を経由して黒嶽荘に下山するコースや、平治岳や大船山に至るコースもあり、群生したツクシシヤクナゲやミヤマキリシマの開花時期には、多くの登山者が訪れています。

黒岳全山が望める阿蘇野からは、春は新緑、秋は特に全山が染まる紅葉と四季を通じさまざまな山容が楽しめます。「ぜひ一度は黒岳にきちよくれ！」

## ストップ！死亡労働災害

【宮崎南部森林管理署】宮崎

県下で今年も死亡労働災害が連続して発生していることから、林業・木材製造業労働災害防止協会本部から宮崎県に「林業死亡労働災害多発警報」が発令されたことを受け、現在、事業実行中の請負事業体に林業労働安全の要請を行いました。当日は、約50人が参加。4月に当署管内で発生した立木販売箇所における死亡災害の概要を説明し、類似災害防止を呼びかけ、労働安全衛生規則の改正に伴う車両系林業機械における特別教育の必要性や法令遵守など、「やるべきことは必ずやる」ことを参加者全員で確認し終了しました。



安全指導を受ける事業者の関係者＝宮崎南部

# 第18回「森の塾」を開講

## 熊本県内の小学校教諭が参加

7月30日、監物台樹木園にて、熊本県内の小学校教諭が参加し、第18回「森の塾」を開講しました。「森の塾」は、森林・林業に対する理解と認識を深め、森林環境教育における知識や技術を教育現場で活かして頂く事を目的に、これまで延べ約160人が受講しています。

今回は、人工林の計画的伐採

による木材の有効利用や林業の低コスト化など森林の現状・課題と九州森林管理局の取組などの講義、さらに「シカと森林のカード」「木」を使った漢字の連想学習など環境教育手法を



「森の塾」を受講する小学校の先生ら

体験してもらいました。

また、実技・実習では、園内散策、二酸化炭素含有量の測定、マイ箸・クロモジ楊枝作りなど多種多様なメニューで行い、参加者は、樹木1本の二酸化炭素吸収量に驚くと同時に樹木の公益的機能を実体験し、「学校の樹木を測定したい」「授業で早

速使おう」などの声が聞かれました。

最後に、「樹木は知れば知るほど勉強になる」「森林・林業応援隊として、何か応援できることを実践に移していきたい」などの感想が寄せられ、今後の教育現場における森林・林業の普及啓発に大きく期待出来る学習の場となりました。

(担当＝技術普及課)

## スキー場にシカ囲いを設置

【宮崎北部森林管理署】九州最

南端スキー場の五ヶ瀬ハイランドスキー場の敷地内に、横20メートル、縦10メートルのシカネットによる

シカ囲い罾を関係者を含め職員実行で設置しました。スキー場の運営が始まる11月頃までの5箇月間シカ捕獲を続けることとなり、昨年の実績16頭を上回る捕獲を期待しています。スキー場での囲い罾の設置は今年で3度目となり、今回は作業の軽減と施設経費の縮減を図るため、従来の支柱を使ったものを改良し、立木などを活用したことが

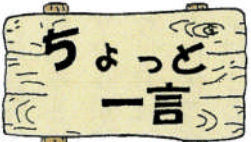


囲いわなを設置する職員＝宮崎北部

# 大きな刺激となった「林業再生プラン」

「森林・林業再生プラン」は、農林水産省が2009年12月に公表し、2010年11月に「森林・林業の再生に向けた改革の姿」として検討委員会の最終報告を受け、2012年度から施行されました。

その後、政権の交代や制度の



見直し、規則の改正などがありましたが、基本的な方針の変更はないものと認識しています。

この再生プラン



児湯広域森林組合

代表理事組合長

長友 幹雄さん

の内容が明るみになってきた頃、いくつかの改革の柱がある中で、特に「森林組合改革」の項目は、神経質にならざるを得ませんでした。「このままだと森林組合は消滅する」と危機感を覚えました。そこで職員ら

ことや疑問に感じる箇所はあったものの、再生プランが示す森林組合の目指すべき方向性は、そのとおりだと感じていました。施業の集約化や森林経営計画の樹立では、森林所有者との話し合いが必要ですから、現状で

からなる検討会を設け、「森林・林業再生プラン」の目的、内容、森林組合は何をすべきか、何ができるのかなどについて検討を重ねてきたところです。協議する中で、一部には納得できない

もうまくいかない面が多々あるようですが、他の事業体との協力体制も以前より整ってききましたし、国有林を含めた共同施業団地を設定し連携を図るよう協議がなされています。

しかし、気になるのはやはり人の問題。山林労働者の育成はもちろんです。組合員の山を守るためには、森林組合が継続して存在しなければなりません。森林組合の職員の育成も重要だと感じます。

「森林・林業再生プラン」の登場は、いろいろな意味で、私たちに大きな刺激を与えてくれました。

# 「シカ被害対策」で協定締結



協定書に調印後の関係町村長ら＝熊本

【熊本森林管理署】南阿蘇村役場久木野庁舎において、高森町草村大成町長、南阿蘇村長野敏也町長、両町村猟友会代表、熊本森林管理署森本義春署長及び関係者30人が出席し、両町村内のシカ被害対策にかかる協定の調印式を行いました。協定は、両町村内の国有林や民有林周辺のシカ被害対策を推進するため、の地域と連携した取り組みでは、両町村に隣接する猟友会に対し、畷や林道の鍵を貸与する協力体制の構築が主な内容で、シカによる農林業被害や森林生態系への影響軽減を目的としています。

調印式では森本署長より「本協定を有効に活用いただき、熊本県特定鳥獣保護管理計画の目標頭数達成に向け貢献することを期待する」旨のあいさつがあり、今後、協定者間の連携を密にし、シカ被害対策を進めていくこととしています。なお、当署における協定締結は山都町に続き2例目となります。

## 高崎県の林業普及指導員へ研修

【都城支署】7月7日、鹿児島県森林技術総合センターから

の要請で当支署管内某ノ浦国有林の「誘導伐実行箇所」において、2014年度鹿児島県林業普及指導員の研修を行いました。研修では、県内各地域振興局の林業普及指導員約20数人に対し、コンテナ苗の低コスト造林、シカネット斜め張りの低コスト獣害対策などについて説明しました。参加者からは設置コストやコンテナ苗の生育状況などについて質問があり、最後に情報交換会を行い、民間連携における幅広い林政課題について情報交換を行うことが出来、有意義な



現地にて職員から説明を聞く参加者＝都城

# モニターの声



谷田ゆり子さん

私は2013年5月に主人の転勤で熊本市に引越してまいりました。その前は徳島市に住んでいました。徳島市に住んでいたとき、四国森林管理局の森林モニターをしておりました。

そのとき、香川県の森林に連れて行ってもらったことがあります。樹齢何百年の巨木をみたときはとても感動しました。現在、このような巨木はとてもなくなくなっているようです。日本は法隆寺など木造建築の古い建物が多くありますが、このような巨木がへってきているために文化財の修復が困難になってきているそうです。

# 森林を守っていくには

もう一つ残念なニュースがありました。四国の山間部に家電製品の不法投棄が多くあるというニュースです。リサイクル法で家電を買い換える時、費用がかかるようになってからこのような不法投棄が増えたそうです。

人に荒らされていないように見える森林でも、いろいろな問題を抱えていることが分かり、どうしたらいいかを考える為に再度モニターに応募しました。徳島市に住んでいたとき、農林水産審議会委員をしていて徳島県庁の会議に参加してました。そこでよく議論されていたのが林業の担い手がいないということでした。大変努力のいる仕事の上、何十年何百年後にならないと木が育たないという気の遠くなるぐらいの結果が見えない仕事であるのが原因だそうです。1分1秒を争う現代人の感覚とはかけ離れて

います。それと徳島県の森林は私有林が多く境界線が分かりにくく、管理が難しいそうです。今の林業をたて直すには、再生エネルギー買取制度の木質バイオマスエネルギー活用を進めていくしか方法がないと私は思っています。

少子高齢化で山間部の集落はどんどん消えていっています。森林をどのように管理していくのか国民全体で考えていかなければいけないので、国民に対して広報活動をこれまで以上にやっていくことが必要です。

(熊本県在住 谷田ゆり子)

四国の森林や河川はとても美しいです。都会から離れていて人が少ないので荒らされていない感じがいいと思っていました。ところがとても残念な事件が

# 恒例の森林教室を開催

【宮崎南部森林管理署】日南市

市飼肥の日南幼稚園では、木や緑と触れ合い自然の大切さを教える環境教育に力をいれていることから、園児約70人を対象に森林教室を行いました。森林教室では、森林の大切さを伝えるため、日南の山に生息する動物や鳥、昆虫などのクイズや紙芝居、ヒノキの枝を使用したキーホルダー「もっくん」作りを行いました。園児らの賑やかな声が教室いっぱいに響き渡り最後に、元気なお礼のことばがあり、「また来てね!」とハイタッチをしてくれました。



職員の説明を熱心に聞く園児ら  
宮崎南部



今年の3月、熊本市立城南図書館が木造で新設され、開館後1箇月の入館者数が目標の7倍に達したとの話を聞き、見たいと思いつつ機会を逃して

## 街に増やしたい第二の森

たのですが、ようやく休日に行ってみてきました。木造の建物に共通することかもしれないが、県産材がふんだんに使われた室内に入ると、得も言われぬ落ち着き、安らぎを感じます。特に、

した(今は単身赴任で子どもと一緒にいないのが残念...)。最近、こうした木造の公共建築物が増えてきています。国が公共建築物等木材利用促進法を定めて推進していることもあり

「第二の森」という意味で、いわば街の中の固定し続けると木材を多く使った建物は、木材の形で吸収した二酸化炭素を

固定し続けると

図書館という場所柄に木の肌合いがとてもしっかりしていました。児童書が充実した図書館に、ヒノキのフローリングの上を子どもたちが裸足で走り回る児童館が併設されており、子どもと一緒に通いたい魅力的なスペースで

ますが、やはり木造の建物に感じる温もりや安らぎといった雰囲気を利用者に理屈抜きで受け入れられる面があるような気がします。



都会の中の緑の森  
ネコノチチは果実が猫の乳首に似ていることからつけられた名前です。果実は狭長楕円形で、黄色から赤くなり黒く熟します。果実を発見したら色の変化を観察するのも面白いと思います。

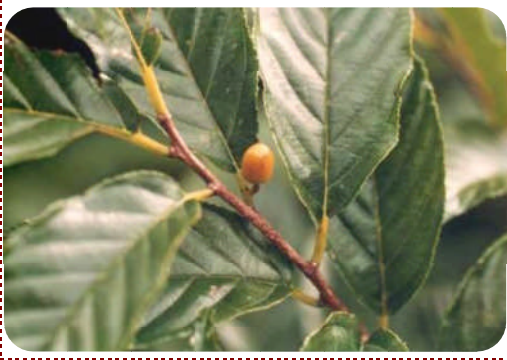
同じ葉の付き方をしています。葉の表面の色を「黄色帯びた暗緑色」と表現し、羽状脈は斜めに平行し表面は凹んでおり、一見しわしわに見えるのも特徴です。

花は咲きませんが果実は観察していません。花は両生花で雌雄異株ではありません。

## 82 ネコノチチ(クワウメドキ科)

観察会では「葉はどのように付いていますか」と質問していただくと、驚かれます。葉は、右右、左左と2枚ずつ交互に出て互生していますが、これを互生とは言わず「組み互生」といいネコノチチの特徴で

神奈川県以西の日本全体に分布する落葉高木で、暖地に生えます。樹木園には西側の丸太小屋の前にあり、高さ1・5メートル



梅雨が明け、また暑い夏がやってきた。今年の梅雨は、通勤に傘をさすことはあまりなかった

▼長くダラダラと雨が降る日は少なく、一気にドシャッと降る、まさにバケツをひっくり返したような降雨が多くなってきた▼更に、今年は早くも台風が九州に上陸。過去には秋のイメージだった台風が7月にも日本に近づくことが多くなり、昔は異常気象と言っていた事が、なんだか当たり前になってきた昨今である▼映画「WOOD・JOB」が公開された。自分の記憶では、

林業従事者(山師)が、主人公となる映画やドラマは今まで見た記憶がなかった▼その影響という訳ではないだろうが、最近の新聞には若い林業従事者が増加しているという記事があった▼テレビでは20代の女性現場作業員がチェーンソーを持って伐採現場で働いている映像が流れていた▼林野庁が発行する7月号の「RINYA」でも取り上げられていて昔では考えられないことであるが、若い林業従事者が男女問わずこれからも継続して増えてほしいと願うばかりである。(S)